

# 脱・無縁社会への挑戦

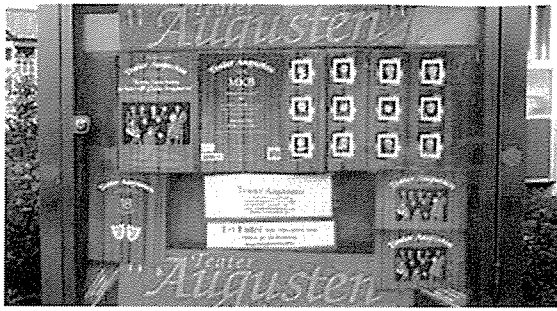
## 第1回 スウェーデンの団地再生

昨年を表す言葉が「絆」であったが、今ほどコミュニティでのつながりが重視されている時期はないと言えよう。

ここでは『欧州に学ぶ脱・無縁社会への挑戦』として、昨年筆者が現地調査した欧州の先駆的な事例を紹介したい。第1回は、「スウェーデンのシニア劇場による団地再生」だ。

### ■シニア劇場とは

スウェーデン マルメ市は、デンマークとの国境に



▲団地の活性化にもつながった「シニア劇場」

ある人口30万人の港町だ。かつて造船業で栄えたこの街は、近年は新エネルギーやITの街と変貌し、オールド・タウン問題に対して新たな挑戦を続けている。マルメ市にあるアウグステンポリ地区での団地再生では、屋上緑化等のハード以外に、団地内にあるシニア劇場がソフトとして大きな役割を果たしている。

当地でも独居老人や高齢者の孤立死は深刻な社会問題であり、高齢者の見守りコストは行政にも大きな負担になってきた。そこで考えられたのが高齢者の社会参加を促すシニア劇場だ。筆者が訪問した時には、93歳の女性が歌い、観客は笑顔で彼女に声援を送っていた。50〜60人が入れば満席の劇場だが、今では年間2000人の観客がここを訪れるという。

マルメ市役所のスタッフは語る。「団地再生で重要なのは、ハードよりはソフトです。いかに建物をリニューアルしても、そこに住む人が幸せでなければ意味がありません。シニア劇場のような社会参加の場づくりが、コミュニティ再生のために大事なのです。また、近々子供劇場も作る予定で、多世代の交流が団地全体の活性化になります」

### ■日本への示唆

では今回の事例から日本は何を学ぶべきか？以下ポイントを示したい。

#### (1) 対処から予防の視点へ

孤立死や行政の見守りコストは国を問わず大きな負担になっている。大切な問題は深刻になってから対処するのではなく、先手を打つ予防の視点だ。シニア劇場は、社会参加により高齢者の引きこもりを未然に防ぐ仕掛けとなっている。

#### (2) 部分最適から全体最適の視点で

シニア劇場は市の住宅公社が運営し、公演は無料、演じるシニアもボランティアで無報酬だ。当然、事業は持ち出しだが、団地全体

## 「シニア劇場」で引きこもり防止

でみれば、引きこもりの予防、寝たきりやうつ病の減少、団地の消費の増加と社会的にも経済的にも有益である。得てして自治体では、住宅、福祉、産業など各部門の縦割りになりがちだが、マルメ市では、事業単体の部分最適でなく全体最適での視点が行政に浸透している。

#### (3) 高齢者の高次欲求の充足

「マズローの欲求の5段階説」では、人間の欲求は生理↓安全↓親和↓承認↓自己実現となっている。高齢社会というとき、とすれば介護や見守り等、生理や安全の基礎的な欲求充足に目が行きがちだ。しかしシニア劇場は、劇場を通じて誰かとつながる「親和」、劇場で他者から認められる「承認」、自分の晩年での「自己実現」といった高次の欲求を充足させる場になっている。コミュニティにおいて高齢者は弱者やコストでなく、担い手であり資産という高齢社会の新たなモデルと言えよう。

この事例をみて、「日本では難しい」と言うことは簡単だ。しかし出来ない理由を幾ら並べても問題は何も解決しない。そして、この間にも高齢者の孤立という問題は一層深刻になっているのだ。今日日本に必要なのは、勇気を持って一歩踏み出し、脱・無縁社会への挑戦をすることなのだ。

■おわりに 一歩踏み出す勇氣  
スウェーデン人の国民性

三菱総合研究所プラチナ  
社会研究センター  
松田智生主任研究員



慶応義塾大学法学部卒業。専門は新産業創造・組織活性化。2010年新たな政策提言プロジェクト「プラチナ社会研究会」立ち上げ。シルバーよりも上質なプラチナ社会・産業像を研究。松田氏のアドレスtmatsu@mri.co.jp  
プラチナ社会研究会アドレス http://platinum.mri.co.jp/